

中海自然再生協議会（第6期、第3回）議事録案

平成30年3月17日（土）、13:30～16:00（15:45終了）

於 鳥取県 西部総合事務所 新館B棟2階 第17会議室

（参加者名簿 別紙）

開会に先立ち、前回の協議会で承認された神谷氏（前回協議会欠席）から副会長就任の挨拶があった。その後、神谷氏の司会により報告と議事が進行した。まず2月9日に開催された平成29年度自然再生専門家会議について、資料（専門家会議の議事録）を用いての報告が國井会長からあり、当日の会議には会長と熊谷前会長が出席したこと、専門家委員からは2つの事業を中断した理由を記すこと、何故2つの実施者が第2期計画では抜けたのか、窪地の埋め戻しや海藻の刈り取り事業の調査研究以降どう発展させるのか、事業が全体的に面白みに欠けるといった様々な意見が出たが、最終的には第2期実施計画を進めてよいとのことであったことなどが紹介された。

次に、4つの実施計画の年次報告が資料を元にそれぞれの担当者（海藻類の回収及びその利用事業は倉田氏、浚渫窪地の環境修復事業は桑原氏、中海湖岸域の利活用プロジェクトは米子高専の永田、山内、上田各氏がそれぞれ「米子水鳥公園ネイチャーセンターの夏期温熱環境に関する研究」、「中海周辺の利活用実態に関する研究」、「ゴズ釣りマップの作成とゴズの地域ブランド開発へ向けた取り組み」を担当、有用二枚貝（サルボウガイ）復活を目指す事業は予定されていた川上氏欠席のため、自然再生センターの徳岡理事長が口頭で概略を説明）により行われた。ゴズ釣りマップの発表に関して質問を受けた上田氏は、次回は釣りをを行う場所を増やすこと、マップをいつどのような形で公表するかを考えていると回答した。

追加の報告として、昨年末に『『中海の自然再生10年史』作成とその普及』と題して応募した中国建設弘済会の平成30年度中国地方地域づくり等助成事業が採択されたとの報告が國井会長からあった。残念ながら採択額が申請額（およそ100万円）を大幅に下回る額（10万円）だったことから、実際に助成を受けるか辞退するかについて参加者と意見交換を行い、その結果、情報収集などできる範囲での活動を行うということで助成を受けることとした。

議事とされていた「全体構想の見直しについて」は、提案者である國井会長から、今回は議事というよりは提案という位置づけであるということで、中海の自然再生全体構想が策定されてから10年が経ち、特に目標を達成するための取り組みが実際の取り組みと乖離していることから第3期の実施計画策定前に整理する必要があること、そして自然再生基本方針がこの間に2回見直され（第1回目は2008年10月、第2回目は2014年11月）、生態系サービスや小さな自然再生の推進、あるいは地域コミュニティの再生といった初期には考慮されていなかった点が新たに含まれるようになったことから、次回以降の協議会で全体構想の見直しについて協議したい旨の発言があり、了承された。最後に、次回の協議会は9月頃を目途に開催し、9月と3月の年2回開催を基本とするということで意義なく了承され、散会した。